

## 進路通信

2021年 第8号 12月8日(水) 発行

一般選抜合格ライン突破対策  
(蛍雪時代12月号より抜粋)

## 共通テスト70%、私立大60~70%を確保

共通テスト(共テ)まで約1か月後となり一般選抜受験者にとっては本番を直前に控え「どれくらい点を取れば合格できるのか」と不安になっている人もいます。その目安となるのが「合格最低点」です。

合格最低点とは合格者のうち順位が最下位の人の得点のことです。大学・学部によっては素点(得点した点数)だったり、得点率(合格最低点/満点)だったりします。受験で合格するにはこの最低ラインを上回ればいいのです。合格最低点(率)は、一部の大学を除き、大学HPや赤本等で確認できます。

年ごとの問題難易や倍率の変動等により合格最低点も上下しますが具体的な合格可能性を考える上で最も現実的な目安となります。過去問演習においてはその年の合格ラインと自分の実力との距離を常に意識して、その距離を克服していきましょう。

## 私立一般選抜は「8・7・6」で6割~7割を確保

私立大一般選抜の具体例を示してみます。京都にある龍谷大・経営(私立文系・河合偏差値50)の昨年度入試では「英語」「国語」「地歴,公民,数学から1科目」の計300点満点。受験者2257人に対し合格者449人で、合格最低点は211点(得点率70.3%)でした。

その得点分布の特徴は、

- ①合格最低点211点から220点のゾーンに197人で全合格者の44%を占める。
- ②不合格者の最高点210点から201点のゾーンに243人いる。
- ③合格最低点で合格した人は25人、1点差で落ちた人も25人いる。

合格ライン付近では同学力の受験生がひしめき合い、わずか1点差で合否が分かれるのです。どこでその差が生まれるのかを知っておくことが重要となります。それは「得意科目」を持つことの大切さと「苦手科目を克服」する必要性です。

合格者(Aさん・Bさん)と不合格者(Cさん・Dさん)の得点状況を以下に示します。

Aさん: 英語(普通・65.7%) + 国語(得意・77%)

数学(普通・69%) = 211点【合格】

Bさん: 英語(得意・76.2%) + 国語(普通・69.4%)

日本史(普通・66.3%) = 211点【合格】

Cさん: 英語(苦手・52.8%) + 国語(普通・76.2%)

日本史(得意・81.9%) = 210点【不合格】

Dさん: 英語(普通・66.1%) + 国語(苦手・54.6%)

世界史(得意・90.1%) = 210点【不合格】

3科目入試では1科目の比重が大きくなります。Aさん、Bさんのように苦手科目(得点率60%以下)がなければ、合格ライン(70.3%)に到達していない科目があっても得意科目でカバーすることができますが、Cさん、Dさんのように極端な苦手科目があると得意科目でカバーすることは難しくなってしまいます。

得意科目での優位を生かすには、苦手科目でも6割以上取れるようにレベルアップが必要となります。

私立一般選抜での合格ラインは約7割とされる場合が多く、そのラインを超えるためには、得意科目(8割以上)を持ち、残り2科目で7割台(得意~普通)と6割台(普通~やや苦手)に持っていき、「8・7・6」パターンを目標にしてください。



**初級レベル** 凜々(りり)しい

→ 引き締まって勇ましい

= gallant

例) 凜々しい顔つき

**標準レベル** 冗漫(じょうまん)

→ 表現に締まりがなく無駄が多いこと

= verbose

例) 冗漫な説明にうんざりする。

**発展レベル** 諾(うべな)う

→ もっともだと承知する

= obey

例) その意見に諾うことはできない。